



Contents

- 1) 有森 裕子さん AED大使就任インタビュー
- 2) 瓦葺中学校の救命事例
- 3) 財団のコンテンツ紹介①「心止村湯けむり事件簿」
- 4) 寄付のお願い

“AED大使”有森裕子さんに聞く

日本AED財団では、バルセロナオリンピックで銀メダル、アトランタオリンピックで銅メダルを獲得した女子マラソンの有森裕子さんに“AED大使”への就任を依頼し、今後AEDの普及や啓発に力を借りることになりました。

“AED大使”を務めていただく有森さんに、命を大切にする思いを伺いました。



**AED大使
有森裕子さん**



スポーツ中の突然死ゼロを目指して

【Question ①】

AED大使を引き受けていただきありがとうございます。

【有森さん】

AEDは、スポーツ現場で知っておかなければいけないことだと思うし必要なことなので、AED大使を引き受けることに何の抵抗もありませんでした。スポーツに関係するありとあらゆる人に、AEDの使い方も含めていろんな情報を知ってもらうことが大事だと思っています。



【Question ②】

A E Dの重要性は以前から感じていたのですか？

【有森さん】

日本サッカー協会の「こころのプロジェクト（夢先生）」で知り合った安永聡太郎さんから、心臓突然死で亡くなった松田直樹選手（元サッカー日本代表）の話聞いたことが、私をA E Dの普及活動にぐっと入り込ませました。

毎年夏と冬、キッズキャンプを主催しているのですが、安永さんにA E Dの講習を担当してもらっています。教え方が非常に分かりやすいです。「友達が心臓突然死で亡くなったんだよ。隣にいる友達がいつどうなるか分からないんだよ」という話は、子どもたちにストレートに伝わります。スポーツ選手は子どもたちに馴染みやすいし、関心を引きつけながら教えるのも非常にうまいですね。

【Question ③】

そういう意味では、スポーツ選手がA E Dのことを伝えていく意味を感じますね。

【有森さん】

感じますね。一番心停止が起こっている現場の対象者なので。子どもたちも関心を持ちやすいし、影響力が大きい。実際に目の前で倒れたときにA E Dを使えるようになるし、アスリートがA E Dの普及や啓発の役割を担うのはいいと思いますね。

【Question④】

マラソン大会では、5万人～7万人のランナーに1人の割合で心停止が起きると言われていますが、こうした現状やA E Dの重要性は、スポーツ現場でどの程度認識されているのでしょうか？

【有森さん】

正直、A E Dは目に触れる、手に触れるところがないから、特別なところから運ばれてくるようにしか感じていないですね。命を救う機械で大事なことは分かっているけれど、身近ではない。使える人も含めてすごく限られている気がします。

突然死を減らせる機械でありながら、値段が高すぎるのもどうかと思います。プロのスポーツチームすべてに提供し、そのチームの全員が使えるようになったら、すごく広まると思う。そのくらいのサービスがあってもいいと感じます。

【Question⑤】

2020年には東京オリンピックもありますし、AEDの普及や啓発はどのように進めていくべきだと思いますか？

【有森さん】

東京オリンピックの危機管理の1つとして、AEDを議論の中に入れるべきだと思います。例えばマラソンは炎天下で行われるので、ランナーだけでなく、見に来ている人に何か起きるかもしれない。でも、車道が封鎖されていて救急車の動線の確保が難しくなるから、AEDを含めた救護体制の整備がより大切になってくると思いますね。

今後は、関心がない人をどう取り込んでいくかも課題ですね。そのために、各地で開かれているマラソン大会などのスポーツイベントの場で、競技前に行く注意点などのアナウンスにAEDのことを入れてほしいですね。「何かあったら、ここにAEDがあるから、必ず知らせて下さい」とか必ず伝えてほしい。マラソン大会に関連して開かれるEXPOなどのイベントで、1つステージを作ってAEDを見せたり、実践的に使ってみせたり、そのくらいの勢いでやらないと広がらないと思います。

私も、イベント会場などで話す機会があれば、ぜひAEDについて伝えていきたいです。



日本AED財団は、AED大使 有森 裕子さんと共に心肺蘇生とAEDの普及・啓発活動をすすめてまいります。イベント出演企画など、今後のお知らせにご期待ください。

上尾市立瓦葺中学校へ心肺蘇生トレーニングキットが贈呈されました

平成29年1月11日、埼玉県上尾市医師会と上尾看護専門学校から上尾市立瓦葺（かわらぶき）中学校へ心肺蘇生トレーニングキット「あっぱくんライト」が贈呈されました。これは、同校の生徒が授業中に心停止となった際に、適切に蘇生処置が実施され救命されたことへの感謝の意をこめて贈呈されたものです。

心停止が発生したそのときの現場は、一体どのようなものだったのでしょうか？



[ホーム](#)
[くらし・教育・安全](#)
[健康・医療・福祉](#)
[しごと・産業](#)
[まちづくり・市政](#)
[観光・文化](#)

[現在地](#)
[トップページ](#)
[組織でさがす](#)
[広報広聴課](#)
[瓦葺中学校へ心肺蘇生トレーニングキットが贈呈されました](#)

瓦葺中学校へ心肺蘇生トレーニングキットが贈呈されました

埼玉県上尾市役所ホームページより
<https://www.city.ageo.lg.jp/page/013317011101.html>

救命の鍵は教職員と生徒の連携プレイ

平成28年11月、剣道の授業で武道場内をランニングしていたところ、生徒の一人が突然倒れました。指導していた体育の先生は、顔色、表情等から緊急事態と判断し、近くにいた生徒たちに、保健室と職員室へ連絡し、AEDを持って来るように指示を出しました。

連絡を受けて駆け付けた養護教諭は瞬時に心停止と判断し、体育の先生と協力して、119番通報しつつ、胸骨圧迫を実施しながらAEDを使用しました。消防からの電話越しの指導（口頭指導）を受けながら救命処置を続け、AEDによる2度目の電気ショックを実施するところで救急隊が到着しました。救急隊に処置が引き継がれ、倒れた生徒はその頃に意識が戻りました。救急隊のスムーズな到着の裏には、他の先生方による救急車の誘導や、周囲の生徒へのケアといった協力がありました。

その後、生徒は後遺症なく回復し、元気に学校に通えるようになりました。

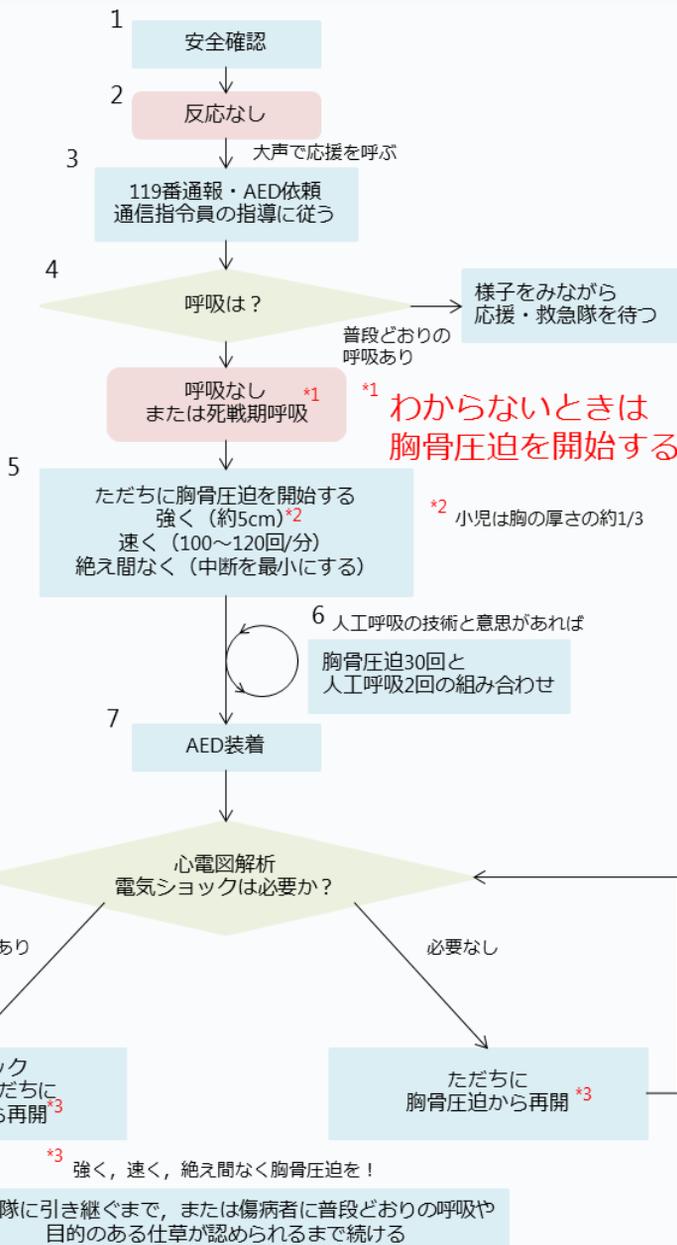
この事例では、生徒の協力と教職員による連携プレイが見事に展開された結果、迅速な心肺蘇生の実施とAEDの使用が可能となり、救命につながりました。

緊迫する突然の心停止現場で、このような素晴らしい処置ができたのには訳がありました。

「ASUKAモデル」を学んだことで救命の一步を 踏み出すことができた

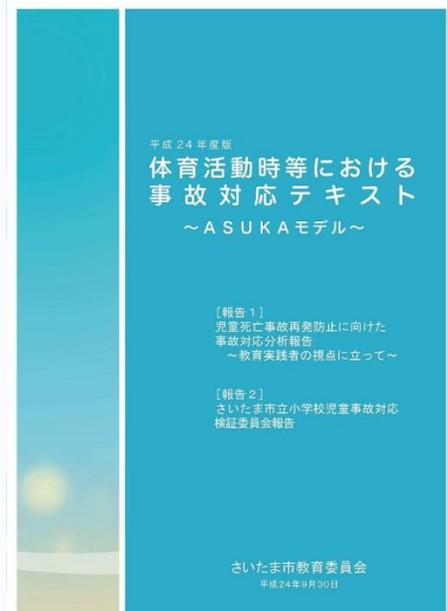
現場に駆け付けた養護教諭は、「ASUKAモデルが普及される前の私だったら、(心停止だと)判断できなかった。」と語っています。

「ASUKAモデル」は、駅伝の練習中に突然発症した心停止によって亡くなった桐田明日香さんの事故の教訓を活かすために、平成24年9月、さいたま市教育委員会が作成した学校における事故対応テキストです。倒れた直後の明日香さんには、苦しそうな呼吸や痙攣(けいれん)が見られました。周りにいた先生たちは、それを見て心停止と判断することができず、心肺蘇生やAEDの装着を行いませんでした。しかし、実はこの時に見られた普段通りではない呼吸(死戦期呼吸)や痙攣は、心停止のサインだったのです。



その反省を踏まえ「ASUKAモデル」では、正常な呼吸かどうかわからなかったり、判断に迷った場合は胸骨圧迫とAEDの使用に進むよう明示しています。

「わからないとき、迷ったときは、胸骨圧迫を開始する」という行動指針は、日本蘇生協議会の蘇生ガイドライン2015にもはっきりと示されました。



ASUKAモデル

図：市民用BLSアルゴリズム(日本蘇生協議会：JRC蘇生ガイドライン2015, p.18, 初版, 医学書院, 2016より改変)

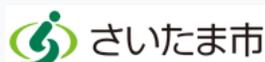
継続的な知識・技術のアップデート そして社会全体での情報共有が求められる

一次救命処置の方法は5年ごとに見直しが入り、その都度改善され進化しています。消防等が行う市民向けの救命講習にも反映されていますが、意識して学んでいないと古いままの知識になる場合があります。

現職の養護教諭の方でも、死戦期呼吸の存在を学んでいないという方が多くおられます。少し前まで、死戦期呼吸や痙攣が心停止のサインだという知識は、共有されていなかったのです。次の見直しは2020年。まだ先になりますが、継続的な知識と技術のアップデートが重要です。

課題を抽出し共有していくことも重要です。瓦葺中学校の事例では見事なチームワークで救命できました。一方で、常に携帯電話等を備えて緊急事態に遭遇したその場で119番通報し、養護教諭の到着を待たずに救命処置を開始するなど、救命できた事例からも課題が見えてきました。

予期せず発生し、即座の対応を迫られる突然の心停止。それに対応するには、こうした事例から得られた情報を、学校はもちろん社会全体で共有し、危機管理への意識を高めていくことが求められています。



 音声よみあげ
  文字サイズ
  標準
  拡大
  文字色・背景色
  黒
  白
  黄
  ふりがな
  English | 한국어 | 中文
  サイトマップ

暮らし・手続き / 健康・医療・福祉 / 子育て・教育 / 観光・スポーツ・文化 / 事業者向けの情報 / 市政情報

トップページ > 子育て・教育 > 教育 > ASUKAモデル > 概要 > 「ASUKAモデル」概要の紹介

← 一つ前に見ていたページに戻る

更新日付: 2016年6月20日 / ページ番号: C040426

「ASUKAモデル」概要の紹介

 このページを印刷する

1. 「体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKAモデル～」とは

平成23年9月29日、さいたま市立小学校8年生の桐田明日香さんが、駅伝の課外練習中に倒れ救急搬送された後、翌30日に死亡するという大変悲しい事故が起きました。「体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKAモデル～」は、この事故を教訓とした、教員研修等のためのテキストです。教員研修を充実させ、学校の安全度を高めることを目的としています。教職員はもとより、全国の多くの方々に広く活用されることを期待しています。

「明日香さんの事故から学ばせていただく。」「二度とこのような事故を繰り返さない。」という想いを込めてつけた愛称が「ASUKAモデル」です。子どもたちを毎日元気な姿で家庭にお返しすることを教職員一人ひとりが心に刻み、傷病者発生時対応訓練を繰り返し行うとともに事故発生時への備えを行うことの重要性を示しています。

2. ASUKAモデル関連資料

(1) 「ASUKAモデル」テキスト (平成24年9月30日作成)

「ASUKAモデル」については、さいたま市のウェブページ

<http://city.saitama.jp/003/002/013/001/p040426.html> より直接ご覧いただけます。

日本AED財団のコンテンツ紹介 ① 「心止村 湯けむり事件簿」

「AEDサスペンスゲーム 心止村(しんどむら) 湯けむり 事件簿」は減らせ突然死プロジェクト実行委員会と日本循環器学会が合同で作成し、2016年2月1日に公開しました。パソコンやスマホからアクセスし、ゲームを通じながら心肺蘇生とAEDを気軽に楽しく学べる内容となっています。

ある老舗旅館で倒れたひとりの男。そこからはじまる命をかけたサスペンスゲーム。エイドとココロの二人が旅館に居合わせた人々と協力しながら男を助けます。10の設問に正しく答えていくことで適切な心肺蘇生とAEDを実施し、物語は結末へと進んでいきます。



AED ネット動画で「体験」



AED 心臓がけいれんして全身に血液を送り出せなくなる心室細動などが原因で、心停止状態となった人に電気ショックを与えて救命する機器。心臓のけいれんを取り除いて正常な状態に戻す。電源を入れたと流れる音声案内に従



「心止村湯けむり事件簿」を監修した武田健徳教授（東京医科歯科大学）がAEDの使い方を説明している様子。

「心止村湯けむり事件簿」は、インターネット上で公開されており、無料で視聴できる。主人公の心臓病を身近に感じようとするか、はたして「倒れた人」を助けるか、という問いかけが、視聴者に問いかけられている。AEDの使い方は、分るが、実際に使ったことがない人は、AEDの使い方を学ぶ必要がある。心臓マッサージの重要性を伝えるために、AEDの使い方を学ぶ必要がある。心臓マッサージの重要性を伝えるために、AEDの使い方を学ぶ必要がある。

自動体外式除細動器（AED）の使い方を体験できるゲーム。ドラマ仕立ての物語が人気だ。その名も「心止村湯けむり事件簿」。おひげ、メガネの強い日本循環器学会だが、若い女性に心臓病を患っているという設定が、医師の監修で、楽しくながら正しい知識を身につけられる。...

2016年3月2日付の産経新聞ウェブ版 (<http://www.sankei.com/life/news/160302/lif1603020017-n1.html>) や2016年5月12日付の東京新聞をはじめ多くのメディアにも取り上げられました。

日本最大級の栄誉ある広告賞である2016 56th ACC(全日本CM放送連盟) CM FESTIVAL インタラクティブ部門WEBキャンペーン賞を受賞、また、公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会の「PRアワード2016」において、~ユーザーとメディアが自ら広め続ける「エンタメコンテンツPR」~「ブロンズ」を受賞しました。

2016年5月12日 東京新聞

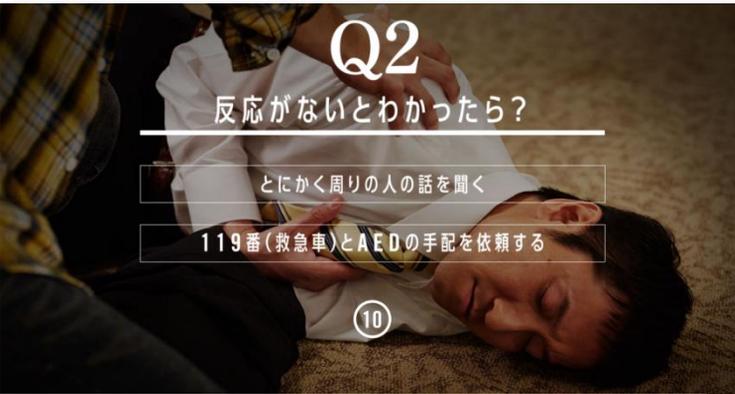


気軽に体験できるゲームから無関心層を巻き込み 一歩踏み出す勇気や救命講習会参加へのきっかけに

旅館にたまたま居合わせた他人同士が
突然倒れた男性を救うべく協力します。



問題に正しく答えていくと救命
処置が進んでいきます。



回答に時間がかかったり、間違えた選択
肢を選んだりして、救命処置に時間がか
かると生存率が低下してしまいます。



誰か助けて。

AED サスペンスドラマゲーム

心止村

しんどむら

湯けむり 事件簿

ある老舗旅館で倒れたひとりの男。命をかけた事件が幕をあけた。
君は、この緊急事態にどう対応する!? ゲームで解いていく美事なストーリー。
アクセスした瞬間、君は事件の主役になる。

AED サスペンスドラマゲーム「心止村湯けむり事件簿」へアクセス
AED サスペンス 検索 <http://aed-project.jp/suspence-drama/>

一般財団法人 日本AED財団
一般社団法人 日本循環器学会
JCS - The Japanese Circulation Society

続きはウェブページでどうぞ！！

AED サスペンス **検索**



個性あふれる俳優陣にも注目です。



ご寄付のお願い

いつ、どこで、誰に起こるかわからない突然死を救うには、全国レベルでの取り組みが求められます。ところが残念なことに救急車が現場に到着するには平均8.6分かかると言われます。心停止の場合、それでは九死に一生を得ることも困難です。手遅れを補う唯一の手段が現場の一般市民による応急手当なのです。たまたま居合わせた素人の市民が勇気を振り絞って手を差し出せるかどうか、そしてすぐにAEDを使えるかどうかが生死を分けます。

そのような市民への協力をいったい誰が促し、その実現のための環境を誰が整えていけばいいのでしょうか。待っているだけでは何も変わりません。それを積極的に変えていくという公的な使命を担うのが日本AED財団であると考えています。

世の中の仕組みを変えていくためには、各方面への働きかけだけでなく、多くの方々に命の大切さを説き、救命が可能なことを伝え、それを実践できるように教育、講習、啓発などを推進していかなければなりません。

日本AED財団は平成28年7月に発足したばかりで、その目的をかなえるだけの資金がまだ足りません。この活動は皆様のご理解とご支援なくして遂行できません。是非とも私どもの活動にご賛同いただき、ご支援賜りますようお願いいたします。貴重な命を救うために。ご寄付は随時お受けしており、金額はいくらでも歓迎します。なお、継続してご支援いただける場合には、支援会員の制度もございますので、併せてご検討ください。

一般財団法人 日本AED財団 御中
貴財団の趣旨に賛同し、下記の内容により寄付いたします。

(申込日) 平成____年____月____日

ご芳名

ご住所 _____
〒 _____

(電話)

(FAX)

(Email)

寄付金額 _____

金 _____ 円

振込人名(カタカナ)

振込予定日 平成____年____月____日頃

【お振込先】金融機関名：みずほ銀行 東京都庁出張所(777)

口座番号：普通預金1065036 ザイ)ニホンAEDザイダン

振込先名義：一般財団法人 日本AED財団

※本用紙をご提出いただく際は以下のFAX番号までのご送付をお願い申し上げます。

一般財団法人 日本AED財団

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-6 山城第3ビル6階

TEL 03-3233-2111 FAX 03-3233-9119

E-mail info@aed-zaidan.jp

HP http://aed-zaidan.jp/



日本AED財団